

地域福祉活動：①出前トーク

5月	下之川地区：山口公民館	16名
6月	八幡地区：須郷集会所	10名
10月	丹生俣地区：丹生俣公民館	14名
11月	八知地区：八知立花公民館	19名



地域福祉の推進：「友交会」活動
3本の柱「よく学び・よく働き・よく遊ぶ」

地域福祉活動として、地域の人々の結びつきを深めるために「出前トーク」や「えみ寺子屋」を開催していきます。



②えみ寺子屋

11月	美杉文化祭出展 手芸品
12月	門松、しめ縄作り教室

【資料1】利用者様の平均年齢は88.8歳と高齢となっており、80歳以上の方が8割以上となっております。平均の要介護度は4.1で昨年より介護度が上がっています。100歳以上の方も105歳を最年長に5名が入居されています。認知症については、日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難など介護が必要な方が約6割となっております。

【資料2】平均介護度は通所介護が2.0、短期入所生活介護が2.5となっております。通所ではほぼ自立している利用者様が多いですが、身体的機能を維持するために機能訓練を重点的に行っています。短期では特養の空床利用や緊急時の受け入れを積極的に行っています。家庭の事情や急な用事などどうしてもご利用が必要な場合は、ご遠慮なくご連絡を頂けたらと思います。

【資料1】特別養護老人ホーム利用者状況
(平成27年12月末現在)

年齢階層	人数	要介護度	人数
60～69歳	0名	1	0名
70～79歳	3名	2	1名
80～89歳	28名	3	9名
90～99歳	18名	4	25名
100歳以上	5名	5	19名
合計	54名	平均要介護度	4.1

【資料2】事業所別稼働率平成(27年4月～12月)

事業	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
特養稼働率	95.7%	97.0%	96.7%	95.2%	96.7%	98.6%	97.1%	95.1%	92.5%	96.1%
短期稼働率	102.5%	102.0%	101.5%	101.6%	100.0%	98.8%	98.0%	94.2%	94.8%	99.3%
通所稼働率	94.0%	87.0%	96.0%	95.0%	96.3%	91.9%	98.3%	94.0%	92.3%	94.0%



入居者の方を募集しています

「サービス付き高齢向け住宅」とは、高齢者単身・夫婦世帯が安心して居住できる住まいです。

※国土交通省・厚生労働省が所管する「高齢者住まい法」に基づく制度です。

昨年11月に、伊賀市阿保で「サービス付き高齢者向け住宅」を開致致しました。津市内で15年に亘る特別養護老人ホームにおける運営実績を生かし、安心してお過ごし頂ける住環境が整っております。介護保険事業所・医療機関・歯科医院などと連携をし、生活をトータルサポート致します。どうぞ緑あふれる環境で充実した毎日をお過ごし下さい。

〒518-0226 伊賀市阿保 245-1

☎0595-52-4165 fax0595-52-4166

ご利用料金ご案内

	Aタイプ 2F	Bタイプ 1F	Cタイプ 1F
面積	18㎡：21室	18㎡：12室	25㎡：5室
家賃	57,000円	60,000円	70,000円
共益費	35,000円		
食堂	希望者の方のみ：朝400円、昼・夜550円		
敷金	0円		

体験利用 見学も随時実施

安心・納得してご入居して頂くために体験利用を実施しています。ぜひご利用下さい！



- 1泊2日(24時間)
(午前10時～翌日10時まで)
- 利用料金：5,000円
(居室代・食事代含む)



明光会たより

第14巻 第1号
(通巻25号)

平成28年1月10日

発行

社会福祉法人 明光会

津市美杉町八知 729-1

TEL 059-272-8800

FAX 059-272-1110



社会福祉法人 明光会

理事 東 純代



新年明けましておめでとございます。皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は法人運営に多大なご理解とご協力を賜り誠に有難うございました。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

今年には長男家族、三男、私達夫婦七人で暖かい沖縄の地で新年を迎えました。紺碧の海と世界一のサンゴ礁を持つ沖縄。独自の琉球文化と歴史を持つ沖縄。日米戦争で沖縄戦を体験した沖縄。戦後、米国の占領下であり、復帰後米軍基地と共存してきた沖縄。様々な顔を持つ沖縄を私は大好きです。

そして何よりの楽しみは二つ。一つ目は沖縄そばを食べることである。具は豚肉(三枚肉)の味付けしたもの。蒲鉾・錦糸卵・ねぎ・紅しょうが等です。本土の和そばとは違い、見た目はラーメンに近いですが、スープは鰹ダシであっさりしており絶品でお勧めです。

もう一つは民謡居酒屋です。その醍醐味は、客も一体となって楽しめること。

曲のリクエストや世間話など、演奏者からお客さんにコミュニケーションを取ってくれ、盛り上がりが出てくると、観客が飛び入り参加し、輪になって踊りだす光景も見られ、店内の人々が一体となって楽しめる居酒屋です。

沖縄には観光バス「ゆいゆい号」やモノレールの「ゆいレール」、民謡「ユイユイ」など「ゆい」という言葉があちらこちらで目につきます。

沖縄(かつての琉球)には「ゆいまー」と呼ばれる結の習慣が残っています。

「ゆい」は「結」(共同、協働)であり、「まーる」は「回る」の訛りで順番を表します。従ってゆいまーるとは「相互扶助」を順番にかつ平等に行っていくことを意味します。ウージ(サトウキビ)畑の収穫の際にも「ゆいまーる」が組織され、家屋や墓地の建造、また金銭的な相互扶助の習慣も根強く残っているようです。しかし、ゆいまーるも結と同様に近年では消失しつつあるとタクシー運転手が嘆いていました。現代の生産形態や社会生活の進歩が、旧来の農業の時代の

ゆいまーるを必要としなくなったのでしょうか。

最近、沖縄の貧困率が34、8% (全国平均は18%)、子どもの貧困率も都道府県別で最悪というニュースが流れました。

背景には、産業の脆弱さや低賃金があるとされています。

国家総力で現状打開を切望しますが、もう一度住民のゆいまーるの再構築も大切かもしれませぬ。

昨年十一月伊賀市阿保にサービス高齢者向け住宅「笑みの森」を開設致しました。現在、職員は二十七名、七割の入居(予約者含む)が決定しております。

入居者の方は、自立から要介護五までと幅が広く、それぞれの生活支援方法の違いや認知症状に伴う行動障害など課題山積ではありますが、一つ屋根の下で、自由性を担保しながら共同生活を送っております。

今年からは、笑みの里と同様「こは小さな社会」と位置付け、入居者の方の自治会、家族会を組織し、より良い住宅運営に努めていきたいと考えております。

日常生活、防災など個人では力が及ばない事もゆいまーるの精神を生かし解決できる事もたくさんと信じております。

今年の年頭記者会見で安倍総理は、「本年は挑戦、挑戦、そして挑戦あるのみ」という言葉を繰り返しておられました。

私共も、高齢者施設、住宅支援の有り方、そして地域福祉についても新たな挑戦を行

良く寝た泡盛は起きるのが遅い：とも言います。二十年、三十年と熟成を重ねた古酒には、一時間近くたつてようやくその特徴を出すものもあります。飲み干した後のおちよこに残った香りまで楽しめるのが、泡盛古酒の最大の魅力。

また最近では、「熟成魚」がひそかなブームです。魚は時間をおかずに新鮮なうちが美味しいとよく言われますが、魚種によつては「本当の旨味が出るのは三日目以降」などというプロの料理人もいます。香りと旨味が最高潮に達するまで熟成させ、酸化する一歩手前を見定めるのがプロの経験値だそうです。

「ローマは一日にして成らず」の諺のように、明光会役員もすっかり経験を積み、熟成された法人運営ができますよう、微力ではありますが精進して参ります。

本年もご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

